

被爆79周年原水爆禁止世界大会・広島大会 「安野発電所への中国人強制連行・被爆の歴史を歩く」

川原 洋子

原水禁世界大会・広島大会のプログラムとして、8月5日に「安野発電所への中国人強制連行・被爆の歴史を歩く」フィールドワークを行ないました。全国各地から参加されるので、継承する会にとって、安野発電所への中国人強制連行の歴史と歴史問題の和解について広く知ってもらうことのできる貴重な機会になっています。

今年で8回目となるフィールドワークには、11人が参加されました。東京8人、大阪2人、福岡1人です。年代別では、30代6人、40代1人、50代1人、60代3人でした。

朝8時にマイクロバスで平和公園を出発し午後4時半に戻ってくる、まる一日をかけて行なうフィールドワークです。安芸太田町加計は県内で最高気温を記録することで知られていますが、前日は39.4℃まで上がり全国ニュースになりました。フィールドワークではありますが、猛暑の中ですから、できるだけ外に出る時間を短くして、バスの中や善福寺の冷房の効いた部屋で説明するように工夫しました。

毎年必ず見学する坪野貯水槽は、7月の大雨で貯水槽に至る山道が崩れてしまい、修復工事が行われているために見学できませんでした。記念碑の周りには工事用車両が並び、仮設トイレも設置されて、いつもの静かな雰囲気とは異なっていました。中国人たちがトンネル掘りのために疲れ果て空腹をかかえて上り下りした山道を歩いて、しんどさを追体験できなかったのは残念でしたが、暑さを考えると、よかったかなとも思いました。

幸い、体調をくずしたり熱中症になる人もなく、全員無事に定刻に平和公園に帰ってきました。



和解まで16年間の取り組み、和解成立後に行なった和解事業、和解事業として建立された記念碑の意義、訪日団に参加して現地を訪ねた遺族たちの気持ちが恨みから和解へと変化した経過、被爆者を生んだ2つの事件など、たくさんの説明をバスの中や木陰で聞いてもらった後、記念碑をじっくり見ていただく。右奥に工事車両が見える。



善福寺のかつて幼稚園だった冷房の効いた部屋で昼食の前後3時間を過ごさせてもらった。

善福寺は当時、坪野で死亡した5人の中国人の遺骨を預かり弔われたお寺であり、来日した遺族たちはその事実を知り、心が慰められた。5人の遺骨は1958年に他の遺骨と一緒に中国に送還されて、現在は天津市の殉難烈士勞工紀念館に安置されている。藤井慧心住職は、2017年に和解事業として同館で行なわれた追悼式に参加されたときのことを、パネルを使って紹介された。



津浪収容所跡はバスの中から確認した。現在は元の田んぼに戻っていて、稲が実って色づき始めていた。それからトンネルの掘り口・西谷立坑へ。7.7kmの導水トンネルは途中9カ所の掘り口があったが、多くは横坑。立坑と横坑の違いを皆で説明しあって、納得する。津浪に収容されていた中国人は山を越えた東谷の掘り口で多く働いていたことがわかっている。東谷の掘り口は高速道路の工事で所在がわからなくなった。



香草工事現場跡、宋継堯さんの失明事故があった現場だ。突き当たりが導水トンネルの掘り口、左側が下り坂の右回りのカーブだ。善福寺でトロッコの模型を見てもらったので、事故の様子を具体的に想像してもらえたのではないと思う。



香草収容所は、杉林の中にあった。杉は戦後、植林されたものである。16歳で強制連行され強制労働中の事故で失明した宋継堯さんが、1995年にこの地を再訪したとき、大きなイチョウの木があったはずだと言われたことなどを紹介した。香草のことは栗栖薫さんが証言されてきたが、高齢のため3年ほど前からお話を聞くことができなくなった。安野の生存者は全員が亡くなられ、当時を知る日本人も証言できる人がおられなくなった。歴史をどう継承していくか、難しい課題である。



7.7kmの導水トンネルの出発点である土居取水口。
 (写真上) 中国電力の職員から施設について説明を受ける。安野発電所は約3000戸分の電気を発電して安芸太田町内と広島市に送っていること、当時造られたえん堤が現在も使われていることなど。
 (写真下) えん堤と対岸の収容所跡を望み、フィールドワークを終えた。



8月5日 原水禁広島大会 安野フィールドワーク
参加者の感想——アンケートから

《東京都 60代》

中国人強制連行について、実はあまり知らなかったのですが、今回のツアーでよく分かりました。日本の過去の戦争をふりかえる時、やはり被害と加害の両面でふりかえる必要があることを改めて感じました。初めての方でも中国人強制連行の実相がよく分かる内容で良かったです。

《東京都 50代》

中国人被害者との和解の過程、和解後の話まで詳細に知ることができた。加害者として事実とどう向き合ったかを知ること重要だと思う。

酷暑の中のフィールドワークは正直身体にこたえましたが、安野発電所の中国人被害について広く知ってもらうためには、このように各地から人が集まるこの時期で良いのかなと思いました。

《東京都 40代》

今日はありがとうございました。証言を聞けなくなっていることも実感しました。今日のお話の中、川原さんのお話には、直接証言を聞いたことが昨日のこのように生々しく聞けました。直接は聞けなくても、私が他の人に話すことで広げていきたいと思えます。強制労働で作られたものを今も使っていて、電力を享受していることに驚きました。あと軍が計画することはとても抜け目なく、徹底していることも感じました。とても怖いし、国民のためとはどうい思えません。今の日本で起きていることもそうなんだと思えます。

《大阪府枚方市 60代》

中国からの強制連行のことを知らなかったので学ぶことが多かった。和解の意味すること、意義を理解することができ、心が軽くなった。

熱中症の心配などで車の移動だったので、ゆっくり行動できた。

《東京都 30代》

安野発電所建設での強制連行・収容所・強制労働からの和解までの経緯を分かりやすく知ることができた。時間もゆとりがあり、余裕があった。

時期的に厳しいかも知れませんが、私鉄総連加盟のバスを是非ご利用ください！！

《東京都 30代》

藤井住職の話が印象深かったです。
少しハードでした。

《東京都 60代》

予想していたより内容が濃かったのですが、ゆっくり丁寧な説明をしていただいたので、おおむね内容は理解できたと思います。ありがとうございました。

最高気温が36℃を超える状態でしたが、主にバス移動でしたので助かりました。

《大阪府枚方市 30代》

フィールドワーク資料が充実していて分かりやすかったです。客観的なものではなく、当事者の方のお声に触れられたので臨場感がありました。当時の地図や写真をご用意いただいて具体的にイメージすることができました。

長年にわたる根気強い活動に敬意しかありません。学校という場に勤める身として、今日お聞きしたこと、自分なりに肌で感じたことをできるだけ多くの教師や子どもたちに伝えていけたら、平和を願う人が増えてくれたらと思います。本日は一日にわたり、貴重な体験をありがとうございました。